

大杉谷登山歩道合同パトロールを実施

— 関係機関と連携し、安全な登山環境を守る取組 —

現地で行っている合同パトロール

三重県大台町から大台ヶ原へと続く大杉谷登山歩道は、「西の黒部」とも称される渓谷美を有する中にありますが、一方で急峻な地形や多雨といった自然条件から、常に高い安全管理が求められる登山道となっています。

こうした特性を踏まえ、今年も令和8年4月14日から15日にかけて、山開きに先立ち安全確認を目的とした大杉谷登山歩道合同パトロールを実施しました。

本パトロールには、三重森林管理署を始め、三重県、大台町、環境省、警察、消防、防災航空隊、山岳救助関係者など多くの関係機関が参加し、それぞれの専門的な視点から登山歩道や関連施設の点検、情報共有を行いました。



初日は大杉谷登山口から桃の木山の家方面にかけて登山歩道を踏査し、落石や浮石、岩場・鎖場、橋梁、道標などの状況を確認しました。

三重森林管理署では、国有林内区間を中心に、登山歩道沿いに立ち枯れた危険木がないかを重点的に確認し、必要な箇所については今後の対応方針を関係機関と共有しました。



2日目は天候が崩れる中での行程となりましたが、桃の木山の家から日出ヶ岳方面へと進み、降雨時における歩行リスクや視界不良時の注意点を改めて確認しました。

若手職員の声



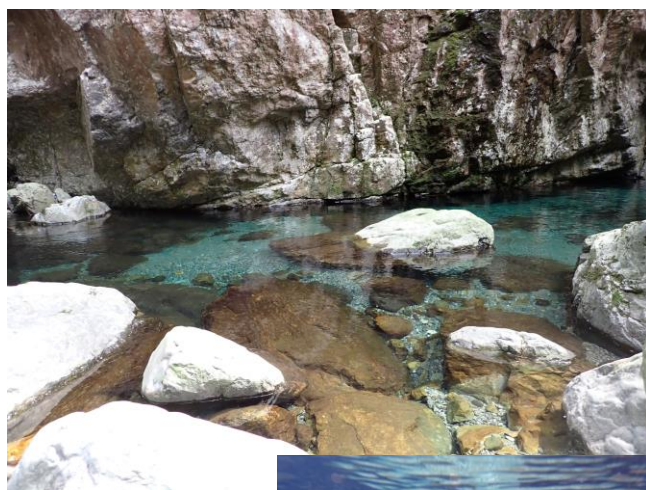
「今回初めて参加し、歩道を歩きながら点検を行うことで、大杉谷の悠然な大自然を感じ、この地域を管轄する署の一員であることを誇らしく思う一方、自然の厳しさと、安全な登山環境の確保の重要性を再認識しました。」
(三重森林管理署 若手職員)

署長コメント

「大杉谷登山歩道は、全国的にも貴重な自然景観を有する一方で、地形や気象条件から常に高いリスクと隣り合わせの登山道です。

この合同パトロールは、関係機関の皆様と現地を確認しながら情報を共有し、安全な利用環境を確保するための重要な取組であると改めて感じました。

当署としても、国有林を管理する立場から、今後も関係機関との連携を大切に、引き続き、登山者の皆様が安心して大杉谷の自然を楽しめるよう、現場に根ざした取組を実施してまいります。



安全な登山環境を次世代へ

大杉谷登山歩道は、多くの吊橋や岩場を越えて渓谷を進む中級者向けの登山道であり、登山者には十分な装備と慎重な行動が求められます。関係機関が連携して実施する合同パトロールは、その前提となる安全な登山環境を支える重要な取組です。